告示

○外務省告示第三百八十三号

国際連合安全保障理事会決議第二千百二十七号に基づき設立された同理事会の制裁委員会が平成二十六年五月九日及び五月十四日に発出した情報に基づき、同理事会決議第二千百三十四号30及び32の規定に定められた措置の対象となる個人を別表のとおり指定する。

平成二十六年八月二十一日

外務大臣　岸田　文雄

1．フランソワ・ヤングボンダ・ボジゼ
FRANÇOIS YANGOUVONDA BOZIZÉ
（別名）ボジゼ・ヤングボンダ（Bozize Yangouvonda）
（生年月日）1946年10月14日
（出生地）ガボン共和国ムイラ（Mouila）
（旅券・人定情報）マルティヌ・コフィオの息子（Son of Martine Kofio）
（指定の根拠）中央アフリカ共和国の平和、安定又は安全を害する行為に従事又は同行為に支援を提供。
2013年３月24日のクーデター後、ボジゼは、進行中の政権移行を不安定化させ、自身を政権に復帰させるために活動している民兵に対し、資金及び物資支援を提供した。フランソワ・ボジゼは、自身の支援者と連絡を取りつつ、2013年12月５日のバンギにおける攻撃を慫慂。700人の死者を発生させた、2013年12月５日のアンチ・バラカ兵によるバンギでの攻撃後、中央アフリカ共和国情勢は急激に悪化。その後ボジゼは、引き続き不安定化作戦の継続及びアンチ・バラカ民兵の組織化を図り、また、中央アフリカ共和国の首都における緊張を維持するため、クーデター後、農村部に分散していた中央アフリカ国軍兵士の再統合を図った。ボジゼに忠実な兵士は、中央アフリカ共和国のイスラム教徒に対する報復攻撃に関与するようになった。ボジゼは、現体制及びイスラム教徒に対する残虐行為の遂行を、彼の民兵に対し呼びかけている。

2．ヌールッディーン・アダム
NOURREDINE ADAM
（別名）ニュルルディヌ・アダム（Nureldine Adam）、ヌルルディヌ・アダム（Nourreldine Adam）、ヌルディヌ・アダム（Nourreddine Adam）
（生年月日）1970年（他に考えられる生年月日1969年、1971年）
（出生地）中央アフリカ共和国ンドゥレ（Ndele）
（旅券・人定情報）特になし
（指定の根拠）中央アフリカ共和国の平和、安定又は安全を害する行為に従事又は同行為に支援を提供。
ヌールッディーンは、セレカの原主導者の一人。セレカの反乱軍の一つである、Central PJCC（正式には、正義と平和のための愛国者会議（ＣＰＪＰ）として知られている団体）の将軍及び議長として認識されている。ヌールッディーンは、ＣＰＪＰの原理主義的分派団体（ＣＰＪＰ／Ｆ）の前首長として、2012年12月初頭から2013年３月の間に発生した中央アフリカ共和国における先の反乱における攻撃に、元セレカの軍事調整者であった。ヌールッディーンの関与なしには、セレカが中央アフリカ共和国の前大統領であるフランソワ・ボジゼから、権力を奪取することは不可能であったとみられる。2014年１月20日にカトリーヌ・サンバ・パンザが暫定大統領に任命されて以来、ヌールッディーンは中央アフリカ共和国北部にイスラム教徒の拠点を作るという自身の計画を実施する目的で、シブトにおける元セレカの戦術的撤退の主要な立案者の一人であった。ヌールッディーンは、自身の勢力に対し、暫定政権及びアフリカ主導中央アフリカ国際支援ミッション（ＭＩＳＣＡ）の命令に対する抵抗を明確に要請した。ヌールッディーンは、2013年９月にジョトディアにより解体されたセレカ部隊である元セレカを積極的に指揮し、キリスト教徒住民に対する作戦を指示し、元セレカの中央アフリカ共和国における作戦に重要な支援及び指示を与え続けている。
適用可能な国際人権法又は国際人道法に反する行為の計画、指示、遂行への関与。
2013年３月24日、セレカがバンギを支配下に置いた後、ヌールッディーン・アダムは治安大臣（当時の「民主的成果の防衛ための特別委員会（ＣＥＤＡＤ）」（中央アフリカ共和国の諜報機関で現在は消滅）の総局長）に任命された。ヌールッディーン・アダムは、ＣＥＤＡＤを自身の私的政治警察として利用し、数多くの恣意的な逮捕、拷問、裁判手続きを踏まない死刑執行を実施。さらに、ヌールッディーンは、ボイ・ラベにおける残虐作戦の黒幕の一人でもあった。2013年８月、セレカの軍勢は、フランソワ・ボジゼの支持者及び彼が属する民族グループの拠点と見なされていた中央アフリカ共和国近隣のボイ・ラベを強襲した。武器の隠し場所を捜索するとの口実の下、伝えられるところによると、セレカの軍勢は多数の住民を殺害し、略奪の限りを尽くしている。このような襲撃が他の地域に広がると、仏軍が駐留していることから安全だと考えられた国際空港に数千の住民が押しかけ、滑走路を占拠した。
天然資源の違法な開発を通じた、武装集団又は犯罪網に対する支援の提供。
2013年初頭、ヌールッディーン・アダムは元セレカの資金調達ネットワークにおいて重要な役割を果たした。彼はサウジアラビア、カタール、アラブ首長国連邦を訪れ、先の反乱のための資金を集めた。彼はまた、チャドによる中央アフリカ共和国とチャド間のダイヤモンドの不正取引に調整役として荷担している。

3．レビー・ヤケテ
LEVY YAKETE
（別名）レビ・ヤキテ（Levi Yakite）、レビー・ヤケテ（Levy Yakété）、レビ・ヤケテ（Levi Yakété）
（生年月日）1964年８月14日（他に考えられる生年月日1965年）
（出生地）中央アフリカ共和国バンギ（Bangui）
（旅券・人定情報）ピエール・ヤケテとジョゼフィーヌ・ヤマゾンの息子（Son of Pierre Yakété and Josephine Yamazon）
（指定の根拠）中央アフリカ共和国の平和、安定又は安全を害する行為に従事又は同行為に支援を提供。
2013年12月17日、ヤケテは、新たに設立された中央アフリカ共和国の改革のための人民抵抗運動（アンチ・バラカ反乱グループ）の政策調整役となった。彼は、中央アフリカ共和国の平和、安定又は安全を害する行為（特に2013年12月５日及びそれ以降のもの）に関与した反乱グループの意思決定に直接に関与した。さらに、同グループは、決議第2127号、第2134号、第2149号において右行為に関し明白に指摘されている。ヤケテは、セレカに繋がる人々の逮捕を指示し、ボジゼ大統領を支持しない人々を攻撃するよう要請し、体制に敵対する人々をなたで攻撃するため若い民兵を雇ったことにより、糾弾されている。ヤケテは、2013年３月以降もフランソワ・ボジゼの側近として、退位させられたボジゼ大統領をあらゆる必要な手段を用いて復帰させることを目的とする「中央アフリカにおける憲法秩序への回帰のための戦線（ＦＲＯＣＣＡ）」に参加。
2013年晩夏、彼はカメルーン及びベナンを訪問し、セレカとの戦いのための人員確保を画策。
2013年９月、ヤケテはボサンゴア近郊の町及び村におけるボジゼを支持する戦闘員による作戦を再び支配下に置くことを試みた。また、ヤケテは、イスラム教徒への攻撃を促進するため、失業しているキリスト教徒の若者に対するなたの配布を促したことが疑われている。